

TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース eyes109

TOPコレクション

メメント・モリと写真

死は何を照らし出すのか

アヴァンギャルド勃興

近代日本の前衛写真

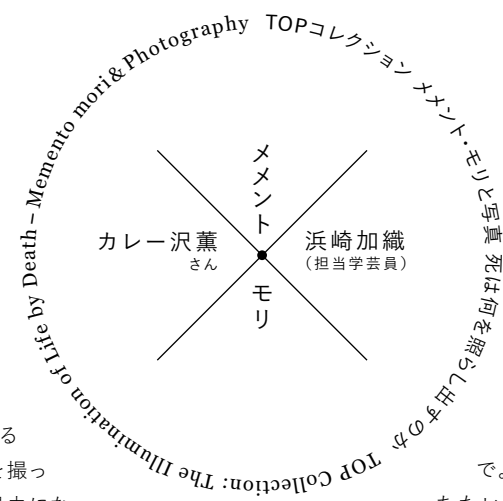
2022年度展覧会スケジュール

TOPコレクション メメント・モリと写真

死は何を照らし出すのか

TOP Collection: The Illumination of Life by Death – Memento mori & Photography

2F 2022.6.17 | 金 | - 9.25 | 日 |



東京都写真美術館では6月17日(金)より「TOPコレクション メメント・モリと写真 死は何を照らし出すのか」展を開催する。「メメント・モリ」とはラテン語で「死を想え」の意。本展では、人々が「死」と向き合いつつ、いかに逞しく生きてきたかを探りたい。同じく「死」を見つめる漫画『ひとりでしにたい』の著者であり、当館広報誌別冊〈ニアイズ〉の作者・カレー沢薫さんと担当学芸員の浜崎加織が「メメント・モリ」について語り合う。

「メメント・モリと写真」と『ひとりでしにたい』

浜崎 本展の企画に際し、「死」にまつわる著作をあれこれ読み直したりしましたが、カレー沢さんの『ひとりでしにたい』(以下「ひとしに」)は、「終活」に目覚めた主人公を通して「死」について具体的に考えることができる画期的な漫画だと思えます。主人公鳴海の母が定年退職した夫(=鳴海の父)に積年の恨みを込めて離婚を切り出すが、バツが悪くなってなかったことにするシーンとか、日本人~日本の家族あるあるも満載ですよね。

カレー沢 玉虫色であやふやでダラダラが日本人だと思うんです。

浜崎 鳴海は私たちの同業者である学芸員という設定ですが、独身女性への社会の逆風や家族と

の関わりの難しさに直面したり、さまざまな辛さを乗り越えていく姿にはとても共感しています。実際に、カレー沢さんが世の中を見ている視点と学芸員の批評的な視点は似ていると思いました。

カレー沢 フィクションですけど、常に現実的に描きたいんです。過去を振り返ると恥だらけ、でも取り返しがつかない、そういうジレンマも含めて。

浜崎 作中の独身で年金暮らしの男性キャラも印象的でした。普段は生気がないのに趣味のヒップホップダンス教室ではラッパーとしての存在感を發揮して、仲間との強い絆で結ばれる。人間には「死」よりも大切なことがあるという重要な真理を描ききってる気がします。

カレー沢 私生活ではタイムリーに行動できないタイプなので、他人の体験談や自分の振り返りを漫画にすることが多いんですよね。特定のモデルがいるわけじゃないんですけど。

浜崎 そういうところが今回の「メメント・モリ」とつながるような気がしました。写真を撮った瞬間、切り取った時間は過去になって二度と戻らない。「ひとしに」と同様、写真も「死」から生を照らし出し、生きることを充実させる助けになるのではないかなと思うんです。

カレー沢 鳴海はともすれば利他的で先のことは考えない。母親のほうは家事や育児でずっと忙しかった。老後を迎えて初めて自分について考える余裕ができた。私なりにやがて来る「死」を想像して、充実した老後を経て死にたいという願望を込めています。

浜崎 「死」を意識しながら生きることに向かっている。重要な原動力ですね。

カレー沢 とはいえ「生きがい」がないとダメじゃなくて、漠然と生きてたっていいじゃないかとは思いますがけどね。

「死」は誰しも絶対避けられない人生のゴール

浜崎 「メメント・モリと写真」では写真以外にもハンス・ホルバイン(子)の木版画シリーズ『死の像』(16世紀)の連作を展示します。人間の欲望と死への恐怖を骸骨が嘲笑う。死と「ガイコツ」のモチーフが結びついて世界的に広まるきっかけとなった作品です。これを見ると「死」と人間の関係って、時が経っても変わってないと思うんですよね。

カレー沢 人間は根本的に「進化」してないですよ

ね。環境、システム、ツールが変わっただけで。お金が欲しいとか目立ちたいとか、人間特有の行動はずっと続いてますし。

浜崎 私は東京都庭園美術館に在籍当時、「生命の庭」展(2020年)を企画しました。現代人は生きている実感を取り戻すことができるのかがテーマでした。そこで生と芸術の関係をヒントに「写真と死」の特性、「死」の側から生の充足を捉えてみたい。それが今回の「メメント・モリと写真」展につながっています。



ハンス・ホルバイン(子)『死の像』より『金持』(試し刷り) 1523-26年頃 木版 国立西洋美術館蔵

表紙(図版) マリオ・ジャコモメリ《やがて死がやってきてあなたをねらう》1954-1968年 東京都写真美術館蔵 Courtesy Archivio Mario Giacomelli © Rita e Simone Giacomelli

カレー沢 「メント・モリ」ってラテン語なんです。英語だと「メント」がmemory=記憶で「モリ」がmortal=宿命ですか。「死」は絶対避けられない人生の最終ゴールなので、「死」じゃなくて生きることをテーマにせざる得ない。前向きなものを描きたいいつも思ってます。

浜崎 タイトルが「死にたい」じゃなくて「しにたい」なのが印象的ですね。

カレー沢 身内の孤独死から物語が始まってますけど、タイトルは軽やかにしたかったんです。

浜崎 連載を始めてから、生き方の変化、創作への影響はありますか？

カレー沢 現代は情報化社会だから知らないと損をすることが多いですね。私が描いている終活とか「死」をめぐる情報も一緒に、積極的に知ろうと努めてはいます。

浜崎 孤独死のニュースに触れるたびに、人っていろんな死に方をするんだなとなんとも複雑な気持ちになります……。

カレー沢 孤独死は生の結果に過ぎません。見た目が悪いから悲惨と考えるのは正しくないと思います。その人が生きた背景まで考えて「死」を「評価」すべきじゃないでしょうか。

浜崎 そういう意味でも、美術館や展覧会もクオリティ・オブ・ライフの生命線、生きる拠り所になればと願っています。

カレー沢 たとえばですけど、孤立している人、「死」に近づいている人が美術館へ行く、何かと出会う、誰かと話す。それだけでも確実に必要な場所ですね。

浜崎 カレー沢さんにとってそういう

場所はありますか？

カレー沢 できるだけ外へ出たくない、人と接したくないの、「私は孤独死するぞ」という変な自信があるんです。そういう人間が孤独死しないための処方箋として「ひとしに」を描いてる部分がありまして。先のことを考えるのはめんどくさい、しんどいけれど、自発的に死ぬのはイヤだし、とにかく漫画で「死」をみつめてみるかと。

浜崎 めぐりめぐってポジティブですね。一見ネガティブな内容を多角的に捉えて表に返す。よりよく生きるためのコツでしょうか。

カレー沢 最初からあきらめておけば裏切られませんが、自分はいつもちょっと落ち込んでいるのがデフォルトなので。



1) ロバート・キャバ《フラガ アラゴン前線、スペイン 1938年11月7日》1938年 東京都写真美術館蔵

2) 荒木経惟《センチメンタルな旅》より 1971年 東京都写真美術館蔵 © Nobuyoshi Araki

人々はどのように「死」と向き合ってきたのか？

浜崎 コロナ禍や現在の世界情勢においても「死」の概念がますます問われるタイミングでの展覧会となりますが、人々がどのように「死」と向き合い、いかに逞しく生きてきたのかを3章仕立てて探ります。

カレー沢 「生」の結果として「死」をポジティブに捉えるのがメント・モリなんです。

浜崎 写真表現に込められた生きることの意味をさまざまな視点で考えます。序章ではメント・モリの起源、中世に流行した背景を『死の像』を中心に紹介します。第1章はW.ユージン・スミス、ロバート・キャバなどの戦場での作品を中心に、写真が「死」を想起させるメディアであることをご覧に入りたいと思います。第2章は近代の「孤独」がテーマです。生まれ育った土地を離れ、異郷で暮らす人等、近代の人々が抱える孤独と死の関係性を、ロバート・フランク、リー・フリードランダー、牛腸茂雄らの作品で探求します。そして第3章は「死」と「幸福」です。「死を想う」契機となる写真が見る者の心にどう訴えるのか、藤原新也、ウジェーヌ・アジェ、小島一郎や東松照明などの作品で掘り下げます。

カレー沢 メメント・モリと「孤独」が特に興味深いですね。「孤独死」という言い方が定着していますが、「孤独」と「孤立」はちがうのかなと。自分は家からほとんど出ない、ほとんど誰とも会わない「孤独」な身ですが、外で働いていたときより心身ともにはるかに健康です。かたや、頼る当てさえない、誰かに頼る気力も体力もない「孤立」してる人たちもいて、なんだか放っておけないですね。



ヨゼフ・スデック《身廊と下側の眺め、聖ヴィート大聖堂の新しい部分の南側》〈聖ヴィトゥス〉より 1928年 東京都写真美術館蔵

浜崎 本展で紹介する写真作品には、いろんな作家の「孤独」や「孤立」、すなわち「死」に対する想像力が色濃く投影されています。もちろん作品の見方や感じ方は人それぞれですが、カレー沢さんが漫画で描いているように、よりよく生きる力につながれば光栄ですね。

カレー沢 とにかく外に出ないので、漫画で描いているエピソードは実体験じゃなくてたいてい想像です。でも実際の出来事と決してかけ離れてはいない。なぜなんだろうと逆に思います。

浜崎 「メント・モリ」ってもともとケ・セラ・セラとかドンマイみたいな心性だったと思うんです。死を前向きに捉えて生きる活力に変えてゆく。観ると生きなくなる展覧会になればと祈るばかりです。

(取材/構成 藤沢学)

カレー沢 薫

漫画家、コラムニスト。2009年「クレムリン」(講談社)でデビュー、2011年より東京都写真美術館広報誌別冊「ニアイズ」の連載を手がけるほか、雑誌、webメディアで漫画、コラムを多数連載

左)『ひとりでもしにたい』④ 講談社(2022年)
右)東京都写真美術館ニュースeyes別冊ニアイズ135号(2022年)



TOPコレクション メメント・モリと写真

死は何を照らし出すのか

TOP Collection: The Illumination of Life by Death - Memento mori & Photography

2F | 2022.6.17 | 金 | - 9.25 | 日 |

TOPコレクション展は、東京都写真美術館の36,899点(令和4年3月末時点)の収蔵作品のなかから、珠玉の名品を紹介する展覧会です。本展は「メメント・モリ」をテーマに、人々がどのように死と向き合いながらも、遅く生きてきたかを約150点の写真作品から探り、困難を伴う時代を前向きに生き抜くための想像力を刺激します。

ラテン語で「死を想え」を意味する「メメント・モリ」は、人々の日常がいつも死と隣りあわせであることを示す警句でした。この言葉は、ペストが大流行した14～17世紀の中世キリスト教世界において、骸骨と人間が踊る姿を描いた「死の舞踏」に代表される死のイメージと結びつき、絵画や音楽など芸術作品の題材として広く伝播していきます。一方で、写真もまた、死を想起させるメディアであることが数多くの写真論の中で言及されてきました。

本展では、ウジェーヌ・アジェ、W.ユージン・スミス、ロバート・フランク、マリオ・ジャコメッリほか19世紀から現代を代表する写真群から「メメント・モリ」と「写真」の密接な関係性を再考します。



[観覧料] 一般 700円 ほか 各種割引あり
※オンラインによる日時指定予約を推奨いたします。詳しくは当館ホームページをご参照ください。
[主催] 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

序章

メメント・モリと「死の像」

メメント・モリの起源、中世に流行した背景等を紹介いたします。

第1章

メメント・モリと写真

写真が死を想起させるメディアであることは、数多くの写真論の中で度々言及されています。第1章ではフランスの哲学者ロラン・バルト、アメリカの作家スーザン・ソンタグ等の著作をヒントに、メメント・モリと写真の関係を示す作品を展示します。

第2章

メメント・モリと孤独

戦争、飢餓、伝染病といったあらがうことの出来ない大きな困難により、死に直面する人々がいる一方で、大きな困難に直面せずとも、死を身近に感じる人々がいます。特にそれは、新たな糧を求めて、生まれ育った土地から離れた人々が、心のよりどころを見失い孤独を感じた時ではないでしょうか。本章では、人々の心に潜む孤独とメメント・モリとの関係性に着目します。

第3章

メメント・モリと幸福

日々の生活の中で、目に見える世界にとらわれがちな私たちが、実は「死」というゴールを見つめることで、「生」を捉えなおし、心の安らぎを得ることができるのではないでしょうか。最終章では「死を想う」契機となりうる写真作品との出会いから、作品がどのように見る者の心に訴えるのかを考察します。

藤原新也《死のとき、闇にさまようか光に満ちるかがそれを選びとる》
(メメント・モリ)より 1972年 東京都写真美術館蔵 ©Shinya Fujiwara

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



アヴァンギャルド勃興 近代日本の前衛写真

Avant-Garde Rising: The Photographic Vanguard in Modern Japan

3F | 2022.5.20 | 金 | - 8.21 | 日 |

前衛写真は海外から伝わってきたシュルレアリスムや抽象美術の影響を受け、1930年代から1940年代までの間に全国各地のアマチュア団体を中心に勃興した写真の潮流です。活発に作品が発表された時期が大変短かったことから、今まで活動内容についての検証があまりなされていませんでした。しかし近年、各地の美術館により研究が進み、海外でも注目される機会が増えています。

それまでも写真にとって絵画の影響は強いものでしたが、前衛写真は画家だけではなく詩人やデザイナーなどが参加し、その活動の幅を広げました。特に1937年に瀧口修造が山中散生とともに企画した「海外超現実主義作品展」が開催されたことによって、多くの写真家が触発され新しい表現へ向かい、画家たちは写真を使って、絵画では出来ない表現に挑戦していきました。

しかし、戦時下体制の強化とともに前衛表現は規制を受け、1939年には時局への配慮から多くの前衛写真のグループは名称を変更せざるを得なくなります。1941年に瀧口が逮捕され、写真雑誌が統合され、また多くの写真材料の輸入が困難となり、各地で行われていた活動も収束へと追い込まれていきます。

時代の波にあらがうことができずに、戦争の陰



平井輝七《風》1938年 東京都写真美術館蔵

に隠れてしまっていた作品を見ていただくことで、自由に表現できる大切さと、写真で表現できることの幅広さを実感していただけることでしょう。

第1章

インパクト

一同時代の海外作家

前衛写真が大阪を中心に流行するきっかけは、雑誌や写真集などを中心に同時代の海外の作家の作品に触れたことでした。シュルレアリスムの影響を受けたウジェーヌ・アジェ、マン・レイ、ハンス・ベルメールなどの作品から触発されて、多くの写真家は新しい表現へと変化していきます。彼らはどのような作品に刺激を受けたのか、この時代に発表された作品を紹介します。

出品作家…マン・レイ、ウジェーヌ・アジェ、ハンス・ベルメール、アルベルト・レンガー＝パッチュ、セシル・ビートン、ブラッサイ

[観覧料] 一般 700円 ほか 各種割引あり
※オンラインによる日時指定予約を推奨いたします。詳しくは当館ホームページをご参照ください。
[主催] 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

第2章 大阪

「浪華写真倶楽部」
「丹平写真倶楽部」
「アヴァンギャルド造影集団」

日本の前衛写真は関西から広がっていったといっても過言ではないでしょう。その中心にあったのはアマチュアの写真家が集い、活動をしていたグループでした。「浪速写真倶楽部」は1904年に創設され、現在でも活動を続けている、日本で最も歴史のある写真クラブです。その中から、先進的な作品の制作を目指した上田備山、安井仲治を中心とし1930年に「丹平写真倶楽部」が結成されました。その後、1937年に平井輝七、本庄光郎らが「アヴァンギャルド造影集団」を結成します。これらのグループの作品を通して、もっとも盛んに前衛写真の活動を行った関西の写真家の作品について注目します。

出品作家…中山岩太、村田米太郎、安井仲治、河野徹、小石清、天野龍一、平井輝七、樽井芳雄、本庄光郎、椎原治、田淵銀芳、服部義文、矢野敏延、小林鳴村、音納捨三、ハナヤ勤兵衛



平井輝七《月の夢想》1938年 東京都写真美術館蔵

第3章 名古屋

「なごや・ふおと・ぐるっぺ」
「ナゴヤ・フォトアヴァンガード」

名古屋の前衛写真は評論家や詩人、写真家が協同するような形で結成されていきます。日本にシュルレアリスムを紹介した中心的な人物で、評論家である詩人の山中散生、画家の下郷羊雄が中心となって結成された「ナゴヤアヴァンガードクラブ」の写真部会が独立し、1939年に「ナゴヤ・フォトアヴァンガード」が結成され、詩人の山本俣右も参加します。その中心にいたのが、1934年に「なごや・ふおと・ぐるっぺ」を結成した坂田稔です。坂田は大阪在住時代に浪華写真倶楽部にも所属し、『カメラアート』（カメラアート社）や『フォトタイムス』（フォトタイムス社）などの写真雑誌に自身の写真論を展開しました。また、彼は福岡を訪問し、ソシエテ・イルフのメンバーにも影響を与えていました。

出品作家…坂田稔、田島二男、山本俣右、後藤敬一郎

山本俣右《題不詳(脱衣棚と椅子)》1935年 東京都写真美術館蔵



久野久《海のショーウィンドウ》1938年 福岡市美術館蔵



永田一脩《火の山》1939年 東京都写真美術館蔵

第5章 東京 「前衛写真協会」

東京で前衛写真の活動の中心となったのは、写真雑誌『フォトタイムス』の後援によって、1938年に瀧口修造、永田一脩、奈良原弘らを中心に東京で設立された「前衛写真協会」でした。メンバーにはほかに、阿部芳文(展也)、今井滋、濱谷浩、西尾進、田中雅夫など、写真家だけでなく画家も複数参加しています。戦時下体制の強化により、1941年に協会の精神的支柱であった瀧口が逮捕され、写真雑誌が統合されると、前衛写真の活動は急速に表舞台から姿を消していきました。

出品作家…永田一脩、恩地孝四郎、瑛九、濱谷浩

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



Avant-Garde Rising: The Photographic Vanguard in Modern Japan

第4章 福岡 「ソシエテ・イルフ」

「ソシエテ・イルフ」は1930年代半ばから1940年まで福岡で活動した前衛美術グループです。「古い(フルイ)」の逆読みで「イルフ」と名乗り、彼らはシュルレアリスムや抽象芸術といった「新しい」美のありかたを探求し、実践しました。主なメンバーは、高橋渡、久野久、許斐儀一郎、田中善徳、吉崎一人と、後にデザイナーとして知られる小池岩太郎、画家の伊藤研之の7名です。他の地域のグループと異なるのは、全員が写真を扱うわけではなかった点です。

出品作家…高橋渡、久野久、許斐儀一郎、田中善徳、吉崎一人、伊藤研之






濱谷浩《東京浅草花月劇場舞台裏で出を待つ踊り子》(東京)より 1938年 東京都写真美術館蔵

2022年度 *Schedule* 東京都写真美術館 展覧会スケジュール

東京都写真美術館で、2022年5月～2023年3月に開催する展覧会ラインナップをご紹介します。国内外で活躍する作家の個展や、当館珠玉の名作コレクション、新進作家によるグループ展など、1年を通じてさまざまな作品との出会いをお楽しみください。

展覧会の詳細や関連イベントは、決定次第、公式ホームページにアップします。公式ツイッターやインスタグラムではタイムリーな情報を発信します。

 @topmuseum
  topmuseum
 <https://www.topmuseum.jp>

2022.3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

2023.1

2

3

4

3階展示室



アヴァンガルド勃興
近代日本の前衛写真

5.20(金) - 8.21(日)

1930年代を中心に日本各地で展開された前衛写真を総覧

日本の新進作家
vol.19

9.2(金) - 12.11(日)

日本の新進気鋭の作家を発掘、紹介するグループ展



国際写真賞
プリピクテジャパンアワード

12.17(土) - 2023.1.22(日)



恵比寿映像祭

3Fのみ
3.26(日)まで
開催

恵比寿映像祭 2023

2.3(金) - 3.26(日)

恵比寿を起点に展開するアートと映像のフェスティバル

2階展示室

TOPコレクション
光のメディア

3.2(水) - 6.5(日)

写真における「光」に着目した作家29名の珠玉の名作を紹介



TOPコレクション
メント・モリと写真
死は何を照らし出すのか

6.17(金) - 9.25(日)

「メント・モリ」をテーマに写真と死について考察する



野口里佳

10.7(金) - 2023.1.22(日)

水中や高地、宇宙など未知の領域と人間との関わりをテーマにする現代作家の写真と映像によるインスタレーション



巻頭特集は
P1へ

恵比寿映像祭 2023

2.3(金) - 2.19(日)

深瀬昌久

3.3(金) - 6.4(日)

60年代から日本写真の第一線で活躍した作家の(鴉)ほか代表作を紹介



地下1階展示室

第47回2022 JPS展
5.21(土) - 5.29(日)



岩合光昭写真展
PANTANAL パンタナール
清流がつむぐ動物たちの大草原

6.4(土) - 7.10(日)

光学を超えて

8.9(火) - 10.10(月・祝)

コンピュータを用いて生み出されるイメージから人間の視覚を問い直す



写真新世紀30年の軌跡
10.16(日) - 11.13(日)

写真展 星野道夫
悠久の時を旅する

11.19(土) - 2023.1.22(日)

恵比寿映像祭 2023

2.3(金) - 2.19(日)

APAアワード2023

2.25(土) - 3.12(日)

アンリ・カルティエ＝
ブレッソン

3.18(土) - 5.14(日)

1) 平井輝七《風》1938年 東京都写真美術館蔵 2) 多和田有希《I am in You 5_1》2018年 作家蔵 3) パーバラ・モーガン《ピュアなエネルギーと神経過敏な人》1941年 東京都写真美術館蔵 4) ウジェーヌ・アジェ《ピレットの回廊、アルシーヴ通り》1898年 東京都写真美術館蔵 5) 野口里佳《クマンバチ #1》2019年 作家蔵 6) 深瀬昌久《襟裳岬》(鴉)より 1976年 東京都写真美術館蔵 7) © Mitsuoaki Iwago 8) タマシユ・ヴァリツ

キー《二眼レフカメラ》〈想像のカメラ〉より 2017/2018年 コンピューター・グラフィック

8月以降に始まる展覧会名はすべて仮称です。展覧会スケジュールは2022年5月現在の予定です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

第47回2022JPS展

2022 the 47th Exhibitions of the JPS

B1F 2022.5.21|土| - 5.29|日|

公益社団法人日本写真家協会が主催するJPS展は1976年に第1回展を開催し、今年で47回目を数えます。歴代の入賞・入選者からは多くのプロ写真家を輩出し、写真愛好家からの人気と評価の高い歴史ある一般公募展です。

【主催】公益社団法人日本写真家協会

【共催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【後援】文化庁/東京都

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり

※オンラインによる日時指定予約を推奨いたします。詳しくは当館ホームページをご参照ください。

〈お問い合わせ〉

JPS展事務局 03-3265-7453

〈公式サイト〉www.jps.gr.jp/jpsten/



文部科学大臣賞 橋 毅
「心から『ありがとう』と独り言」
5枚組

岩合光昭写真展 PANTANAL パンタナール 清流がつむぐ動物たちの大湿原

Mitsuaki Iwago PANTANAL

B1F 2022.6.4|土| - 7.10|日|

世界最大級の熱帯湿地、パンタナール。そのスケールは日本の本州の広さに匹敵し、「パンタナール保全地域」として世界遺産に登録されています。雨季と乾季でドラマチックな変化を見せる、世界でも希有な大湿原に暮らす多種多様な生き物たちの生態に肉薄した写真約100点を紹介します。

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【企画制作】株式会社クレヴィス

【観覧料】一般800円 ほか 各種割引あり

※オンラインによる日時指定予約を推奨いたします。詳しくは当館ホームページをご参照ください。

〈お問い合わせ〉東京都写真美術館 03-3280-0099



© Mitsuaki Iwago



瞬間の記憶～創刊150周年～スポーツ報知報道写真展

The Hochi Shimbun 150th Anniversary Exhibition

B1F 2022.7.16|土| - 7.31|日|

2022年6月に創刊150年を迎える報知新聞。これまでに掲載した当時の貴重な写真や記事から、昭和、平成、令和の歴史を振り返る写真展を開催します。野球、相撲、サッカーなど感動の大会から、エンターテインメント史を飾るスターたちの「瞬間の記憶」がよみがえります。会期中は縁のある人物を招いてのトークイベントを予定しています。

2001年9月30日 本拠地最終戦後、勇退セレモニーの最後にナインに胴上げされ、宙を舞った長嶋茂雄監督 ©報知新聞社

【主催】報知新聞社

【共催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

【観覧料】無料

〈お問い合わせ〉報知新聞社 03-5479-1111



※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



東京都写真美術館収蔵作家 受賞報告

山城知佳子氏

【令和3年度芸術選奨受賞】

山城知佳子氏が「山城知佳子 リフレーミング」展(2021年)の成果などに対して、「令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞(新人賞)」を受賞しました。

ダヤニータ・シン氏

【ハッセルブラッド
国際写真賞2022受賞】

ダヤニータ・シン氏が、写真界のノーベル賞と称される「ハッセルブラッド国際写真賞」を受賞しました。当館は日本初の大規模個展となった「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」展(2017年)を開催。

吉田志穂氏

【第46回木村伊兵衛写真賞受賞】

吉田志穂氏が新人写真家を対象とする「木村伊兵衛写真賞」を受賞しました。吉田氏は「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18」展(2021年)の出品作家として参加。同賞は新型コロナウイルスの影響を受け、2年ぶりの開催。

北島敬三氏

【第41回土門拳写真賞】

北島敬三氏が「第41回土門拳賞」を受賞しました。受賞対象は写真集「UNTITLED RECORDS」(KULA)。同氏は東京都写真美術館第二期重点収集作家のひとり。

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》

キヤノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》

キヤノンマーケティングジャパン(株)
ゲッティイメージズジャパン(株)
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》

アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
ピクテ投信投資顧問(株)
リコイメーキング(株)

《支援会員》

(株)アール&キャリア
(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アオイネオン(株)
(株)浅沼商会
旭化成(株)
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)ADKクリエイティブ・ワン
SMBC日興証券(株)
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーション
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
(株)NHKビジネスクリエイト
エルメス財団
OMデジタルソリューションズ(株)
ションズ(株)
カールツァイス(株)
花王(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キックマン(株)
(株)紀伊屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グロリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)公栄社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三菱石油(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXTGホールディングス(株)
(株)JTブ
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
チャンネル(同)
(株)集英社
シュッピン(株)
(株)小学館

松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
双日(株)
ソニーグループ(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
第一法規(株)
(株)ダイケンビルサービス
台新国際商業銀行
大成建設(株)
大和証券(株)
(株)タカ・イシイギャラリー
(株)高島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
(株)タニタ
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
(株)東京印書館
東京空港交通(株)
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタジオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)

(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)ロンマネージメント
(株)Nana
(株)ニコイメーキングジャパン
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日ケミカルズ(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
日本経済新聞社
日本航空電子工業(株)
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーションス(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
(株)日本デザインセンター
(株)ニッポン放送
日本レコードマネジメント(株)
日本ロレックス(株)
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハースト婦人画報社
(株)ハーツ
バナソニック(株)
(株)パラゴン
びあ(株)
北海道 写真の町東川町
(株)美術出版社
(株)ピックカメラ
(株)ピラミッドフィルム

(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
(株)プリンスホテル
(株)フレイムマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマト運輸(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール
(他1社)

支援会員の
詳細は
こちら▼



2F SHOP
ミュージアム・
ショップ

NADIFT
BAITEN

展示会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・ショップ。カラフルで通気性の良いマスクはいかがでしょうか。マスクの端にはカメラモチーフのアイコンをスタンプ。カラーは全7種類。デザイン性と機能性を兼ね備えており、特にこれからの季節におすすめです。

「東京写真月間オリジナルマスク」 700円(税込)



詳細
ページは
こちら▼



[営業時間] 10:00-18:00(木・金は20:00まで) [TEL] 03-6447-7684
[定休日] 毎週月曜日ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

1F CAFE
カフェ

フロムトップ

野菜をたっぷり摂れるサラダとポタージュのセットをご用意しました。セットに添えるビスケットは甘さ控えめでお食事にも合うように作ったスコーンのようなお菓子。野菜やスープに合わせてお召し上がりください。



詳細
ページは
こちら▼



[営業時間] 10:00-21:00 ※当面は10:00-18:00(木・金は20:00まで)
[TEL] 070-8591-3730
[定休日] 毎週月曜日ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2022 5		TOPコレクション 光のメディア(収) 3.2(水) - 6.5(日)	第47回2022JPS展 5.21(土) - 5.29(日)	『メデジン: 二つの愛の詩』(仮称) 7.20(水) - 7.31(日)
6	アヴァンガルド勃興 近代日本の前衛写真(収) 5.20(金) - 8.21(日)		岩光昭写真展 PANTANAL 6.4(土) - 7.10(日)	
7		TOPコレクション メント・モリと写真(収) 6.17(金) - 9.25(日)	瞬間の記憶～創刊150周年～ スポーツ報知報道写真展 7.16(土) - 7.31(日)	
8			光学を超えて(収) 8.9(火) - 10.10(月・祝)	
9	日本の新進作家 vol.19(企) 9.2(金) - 12.11(日)		写真新世紀30年の軌跡 10.16(日) - 11.13(日)	
10		野口里佳(収) 10.7(金) - 2023.1.22(日)	写真展 星野道夫 悠久の時を旅する 11.19(土) - 2023.1.22(日)	
11				
12	国際写真賞 ブリピクテジャパンアワード 12.17(土) - 2023.1.22(日)			
2023 1				
2	恵比寿映像祭 2023 2.3(金) - 2.19(日)			
3	3F展示室のみ 2月3日(金) - 3月26日(日)	深瀬昌久(企) 3.3(金) - 6.4(日)	APAアワード2023 2.25(土) - 3.12(日) アンリ・カルティエ＝ブレッソン 3.18(土) - 5.14(日)	(収) 収蔵展 (企) 企画展

※8月以降に始まる展覧会名はすべて仮称

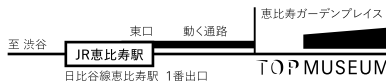
東京都写真美術館 年間パスポート「TOPMUSEUM PASSPORT 2022」販売中

展覧会を無料または割引でご鑑賞いただけるお得なパスポートです。上記スケジュール内の(収)は無料、(企)は4回まで無料、その他は割引料金となります。特典の詳細は、当館ホームページのご利用案内からご確認ください。

[販売価格] 3,300円(税込)
[販売期間] 2022年9月30日まで(予定)
[有効期間] 購入日～2023年3月31日
[販売場所] 1階総合受付

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館

東京都写真美術館ニュース「アイズ2022」109号 □発行日:2022年5月20日/企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2022 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はホームページをご覧ください。